

(新刊紹介)

川原さんを追悼する会編
『女性司書の足あと—回想の川原和子—』
同会 3,2008 160,87p.

菊 川 秀 男

没後十年にして、長らく名古屋大学を中心に司書として活動された川原和子さんの「回想録」が上梓された。

回想録と記したが、正確には川原さんの幾多の著作の中から、「欧米の貴重書図書館の慣行—保存修復を中心として」ほか2点と、故人の親族、学友、職場の同僚、それに職域を超えた仕事の上での「同志」といえる人々、三十数名の方々の追悼文から構成されている。その中には、川原さんが社会科学古典資料の収集・保存・利用などをテーマに国外留学した際師事した、ハーバード大学クレス・ライブラリーのK・カーペンター氏（一橋大のパート・フランクリン文庫を整理した人物）も寄稿されている。そのほか故人の幾つかの時期の回想（「自伝的に」）と業績目録・年譜も収録。

名古屋大学経済学部図書館で川原さんの「弟子」であり、同僚であり、経済資料協議会の看板事業であった『経済学文献季報』編集作業の機械化のためのKEISの共同開発者でもあった豊岡文英さんの文章などでも語られているように、故人の仕事振りはまことに「壮絶」なものであり、何時も全力疾走していた「仕事人間」ではあったが、仕事一辺倒のガリガリの人物ではなく、笑顔が良く似合う繊細な気持ちの持ち主でもあり、深い思いやりと暖かい心で他者に接する人でもあった。「知の人」でもあり「情の人」でもあった故人の人となりが、この本には良く現れている。

また松田芳郎さんの「川原和子さんのくれた版画」を読むと、協議会の理事会等で毎回のように入り込められた激しい「川原・松田論争」（はじめて居合わせる人はみな「喧嘩」か）と思って驚いたようであるが

なども思い出され、故人が第一線で活躍していた、協議会が「元気」だった頃のことを思い起こさせてくれる。

ここに収められている故人を偲ぶ文章は、何れも在りし日の川原さんを彷彿とさせてくれるものであり、巻頭に掲げられた写真のような彼女がそこにいるかのような本が出来た。

経済資料協議会の創設者の一人であり、会のキー・パーソンであり続けた川原和子さん、その愛して止まなかった協議会がその歴史的使命を終え、この10月に解散する。あの世から「皆さん、ご苦労さんでしたネ」と言ってくれるであろうか。

女性司書の足あと —回想の川原和子—



川原さんを追悼する会編集発行 2008.3

160, 87p A5 判 ISBN978-4-900986-06-0

戦後復興期に名古屋大学で職につき、全国的に活躍した大学図書館員の学術論文3点・(「主観主義の文学」「欧米貴重書図書館の慣行」「スコットランド 啓蒙期の主要学・協会、クラブについて」)、自伝的エッセイ5点及び幼少から晩年に交流のあった人々の追悼文33点を掲載

価 格：定価 2500 円（＋送料実費）

申込先：日本図書館協会出版販売係 hanbai@jla.or.jp

FAX 03-3523-0842 TEL 03-3523-0812

日本図書館協会直販本扱いのため、取次書店ルートでは入手できません。